

歯科補綴学 専門用語集

第6版

2023 The Glossary of
Prosthetic Terms 6th ed.

公益社団法人
日本補綴歯科学会 編



医歯薬出版株式会社

あ

1 アーライン

vibrating line

口蓋の可動部と不動部との境界線。“アー (Ah)” と発音すると、口蓋帆張筋に続き口蓋帆挙筋が収縮するために軟口蓋は挙上する。発音を中止すると、これらは元に戻るが、アーラインはこの運動時における可動部の最前方を示していることから、上顎の義歯床後縁を設定するための基準として利用される。

2 アーリーローディング→「早期荷重」

参照

3 RPI クラスプ あーるぴーあー

RPI clasp

近心レスト、隣接面板、Iバーの3部分から構成される支台装置。3者が互いに拮抗的に働き、支持・把持・維持機能を発揮する。遊離端義歯の垂直方向の動きに対する考え方の違いにより Kratochvil 型と Krol 型の2種類がある。

4 RPA クラスプ あーるぴーえー

RPA clasp

RPI クラスプのIバーに代えて、Akers クラスプ型の鉤腕を組み合わせた支台装置。

支台歯付近のRPIクラスプにおけるIバーの走る粘膜部において、小帯の付着部が高い、あるいは顎堤粘膜のアンダーカット域の位置が高い場合に用いる。ニアゾーンでは、維持腕の上縁をサバイラインに一致させ、その下のアンダーカットはブロックアウトして、アームを支台歯に接触させない。これは床の回転、沈下に際して支台歯に力を伝達させないためである。

5 I. R. V. あいあーるぶい

closure of the interdental space
(C. I. S.)

Interdentalraumverschluss (独語)

テレスコープクラウンの一種で、鼓形空隙を閉塞した可撤性の装置。内冠と外冠で鼓形空隙をなくして、食物残渣の停滞を防ぎ清掃しやすい形状に設計された装置で、Gaerny (1969) により発表された。

6 Eichner 分類

あいひなーぶるい

Eichner classification

歯列の欠損形態の分類法の1つ。上下顎の咬合状態を重視して表示したもので、左右の小白歯部および大白歯部の4ブロックの咬合支持域に分けて、それぞれに安定した咬合関係が存在するか否かによって3型に分類したもの。

すなわち、4支持域すべてに咬合接触を有するもの〔A型〕、4支持域すべてには咬合接触のないもの〔B型〕、対合歯との咬合接触がまったくないもの〔C型〕で、いずれの型も類型を含む。Eichner (1955) により提唱された。

7 アクセスホール

access hole

インプラント体やアバットメントに上部構造(クラウン、ブリッジ、アタッチメント)がスクリューで固定される場合に、連結スクリューを挿入するために上部構造に形成される穴。前歯部では審美性を考慮して舌側面に、また臼歯部では力学的観点から咬合面の中心窩に位置することが望ましい。

8 アタッチメント

attachment

可撤性義歯に使用される支台装置の1

付録：同義語一覽

選定用語	同義語として 認める用語	使用が望ましくない用語	付録 番号
アーライン		Ah-ライン・口蓋振動線	1
圧印金冠	Morrison クラウン		2
アベックス		アローポイント・エイベックス	3
アルミナ陶材	アルミナスポーセレン		4
安静空隙		フリーウェイスペース	5
アンテリアガイダ ンス	前方誘導（指導）	インサイザルガイダンス・切歯誘導 （指導）・前歯誘導（指導）	6
維持	保持	リテンション	7
維持腕		リテンションアーム	8
印象用コーピング	インプレッション コーピング		9
インターオクルー ザルレコード		咬合面間記録	10
インプラントアナ ログ	インプラントレプリ カ		11
インプラント義歯	インプラント補綴, インプラント上部 構造	嵌植義歯	12
インプラント体	フィクスチャー		13
インプラント体支 持	顎骨支持		14
インプラント体- 粘膜支持	顎骨-粘膜支持		15
Wilson の彎曲	側方咬合彎曲・側方 歯牙彎曲・側方歯 列彎曲		16
エステティックブ レーン	エステティックライ ン		17
FGP テクニック	機能的運動路法	機能的咬頭路描記法	18
MPD 症候群		筋膜痛機能障害症候群	19
Elbrecht クラスブ	T 字クラスブ		20
嚙下造影検査	嚙下透視検査・ビデ オ嚙下造影・ビデ オレントゲン検査		21

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
モノリシックジル コニアクラウン	フルジルコニアクラウン・フルカントゥアジルコニアクラウン		263
Monson 球面説		8 インチ球面学説・4 インチ球面学説	264
3/4 冠	スリークォータークラウン・3/4 クラウン		265
リベース		改床・換床・床交換・リベーシング	266
リポジショニング アプライアンス	リポジショニングス プリント		267
両側性平衡咬合		全面均衡咬合・全面平衡咬合・両側性 均衡咬合	268
リライン		裏装・リライニング	269
リラクセーション アプライアンス	リラクセーションス プリント		270
リリーフ		緩衝	271
リングライズドオ クルージョン		舌側化咬合	272
隣接面鉤	近遠心鉤		273
隣接面板		プロキシマルプレート	274
レジンジャケット クラウン	硬質レジンジャケット クラウン・ハイ ブリッド型コンポ ジットレジンクラ ウン		275
レストシート		レスト座	276
レスト付き二腕鉤		三腕鉤	277
レトロモラーパッ ド		白後パッド・白後隆起・白歯後豊隆・ 白歯後隆起	278
連結子	連結装置	コネクター	279
連続鉤		コンティニューアスクラスプ	280
ろう義歯		仮床義歯	281
ワックスアップ	ろう型採得	ろう型形成・ろう形成・ろう原型採得	282
ワンピースキャス ト法	一塊鑄造法		283

【凡 例】

1. 選定用語には、五十音順に用語番号を付けて実用性を高めた。
2. 【鑑】，【蝨】，【囁】に関しては、仮名表記を採用した。すなわち、鑑⇨ろう，蝨⇨ろう，囁む⇨かむ
ただし、仮名書きにすると文中で判別しにくい場合に限って、漢字書きを認めるという意味で、「ろう（鑑）付け」のように表記した。
3. 初版において採用した略字【頸】，【弯】に関しては、会員の希望により、本来の表記に変更した。すなわち、「歯頸部⇨歯頸部」，「弯曲⇨彎曲」とした。【頬】に関しては、『日本歯科医学会学術用語集 第2版』の表記に従い、「頬」とした。
4. 【定義】と【解説文】とは混在するが、今回は敢えてその区分の表示は割愛した。
5. 複数の意味合いを持つ用語、あるいは現時点で定義が確定していない用語に関しては、
 - 1)
 - 2)
 - ・
 - ・として、解説項目を併記する体裁をとった。
6. 索引には頁に代えて用語番号を付けた。
7. 英語表記に関しては、他の表現を否定するものではないが、現在最も一般的と思われるものに限定して掲載した。
基本的には、The Glossary of Prosthodontic Terms Ninth Edition : *J Prosthodont Dent*, 117 (5S) : e1~e105, 2017. に準じた。その他に関しては、可及的に native speaker のチェックを受けた。
8. 選定用語に採用されていなくとも、解説文中で使用された歯科用語は索引に掲載し、選定用語の用語番号を付与することで検索を容易にした。
9. 機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などは、関連用語として可及的に解説文中に記載し、索引に加え、選定用語の用語番号を付記した。
10. 付録としての同義語一覧は、評議員を対象としたアンケート調査の結果を忠実に示した。結果として、関係する用語間の整合性に欠けるものも存在

するが、これについては、引き続き、今後の検討課題とした。

例：線鉤， 鋳造鉤 ⇔ クラスプ

切歯指導釘・板 ⇔ アンテリアガイダンス

11. 〔同義語〕は，索引において，選定用語の用語番号をアンダーラインをつけて付記した。
12. 索引において，付録番号をすべての関連用語に付記した。
13. 人名がつく用語については，第4版まではカタカナ表記であったものをすべて欧文表記とした。